



道の駅足柄・金太郎のふるさと
森林環境譲与税を活用し交流施設の天井構造材に
地元産杉丸太を使用（南足柄市）

目次

森のニュース	1	森林活動グループの広場	4
水源の森林づくりの取組紹介		南足柄市「大雄町花咲く里山協議会」 ～美しい里山を求めて～	
わが市わが町	3	あの森を訪ねて（第18回）	5
茅ヶ崎市		大雄山最乗寺の森と周辺地	
		事務局だより	7

森のニュース 水源の森林づくりの取組紹介

1 はじめに

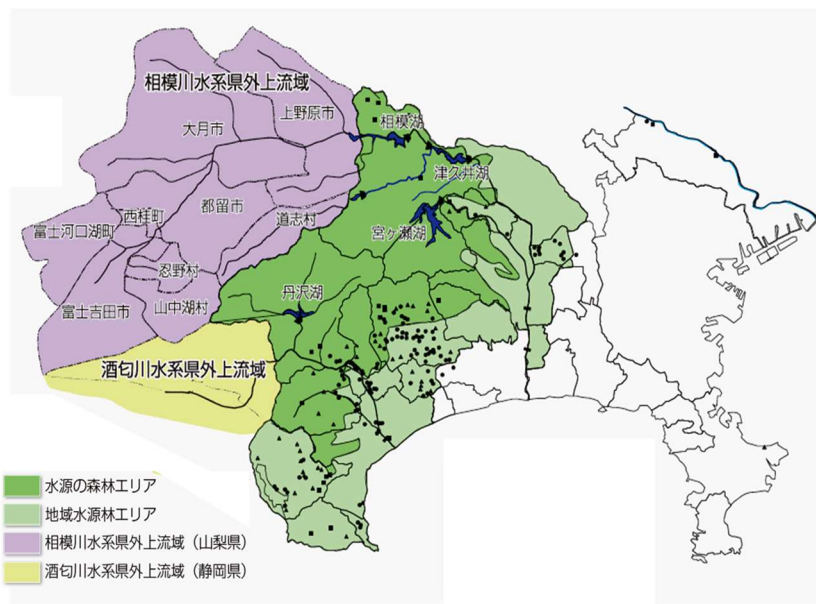
森林はわたしたちに様々な恵みをもたらしてくれます。日ごろ何気なく飲んでいる「水」もその一つです。雨水を蓄えゆっくりと流し続けることから、森林は「緑のダム」と呼ばれています。神奈川の主要な水源である相模川、酒匂川の上流には、丹沢を中心とする森林が広がり豊かな水を育んでいます。

しかし、手入れが行き届かない森林では、太陽の光が地表に届かないため、木々の下に草木が生えず、雨が降ると表土が流され荒廃してしまいます。

そこで県では、森林を健全な状態に再生するため、「水源の森林づくり」を進めており、間伐等の森林整備や間伐材を利用した土留め柵等の設置による土壌保全対策に取り組んでいます。

「水源の森林づくり」では、相模川、酒匂川両水系のダム水源等を保全する上で重要な「水源の森林エリア」内の私有林を対象に、平成9年度から令和8年度までに延べ54,000haの森林を整備することを目標としています。

令和元年度までに整備した森林の面積は、延べ38,805ha（進捗率72%）と順調に進捗しています。



2 水源環境保全・再生施策

県では、平成19年度以降、20年間にわたる水源環境保全・再生の取組全体を示す「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」に基づき、個人県民税の超過課税（水源環境保全税）を財源に、森林や河川の保全・再生など11の特別な対策に取り組んでいます。

水源施策に県民の意見を反映させる仕組みとして設置している「水源環境保全・再生かながわ県民会議」では、平成19年度以降の取組の成果や今後の課題等を確認し、最後の5年の取組に繋げるため、令和2年6月に、「施策の総合的な評価（中間評価）報告書」をとりまとめました。

中間評価では「水源の森林づくり」等の森林関係事業について、

「下層植生が回復し、土壌保全が図られるなどの成果が出ており、概ね順調に進められている」と評価しています。

整備の効果



また、中間評価に基づき提出された、「次期（第4期）5か年計

画に関する意見書」では、「これまでの取組により、一定の事業効果は現れていますが、施策の最終目的である良質な水の安定的確保に向けては、引き続き取り組むべき課題があるため、近年の台風等による自然災害の発生状況等も踏まえ、今後も施策大綱に掲げられている将来像に向けて着実に取組を進める必要がある」との意見をいただいています。



水源環境保全・再生
イメージキャラクター
かながわ しずくちゃん

3 令和元年東日本台風被害

昨年10月の台風19号では、特別警報が発表される記録的な大雨により、相模原市緑区で土砂災害等が多数発生するなど大きな被害となりました。

強い雨が長時間降り続いたことにより水位が急激に上昇し、樹木の根が及ばない基盤層との間に「みずみち」が形成されて、崩壊が発生しました。

そこに立っていた木や間伐材が土壌と一緒に流出する流木被害が発生したほか、このような崩壊地では、土がむき出しの状態となっており、再び強い雨が降ると、被害が拡大する恐れがありました。

このため、水源林の整備では、

被害木の整理や、木製の土留め等を設置して土壌浸食の拡大を防止するほか、状況に応じて苗木を植栽して森林の再生を図っています。

また、崩壊の規模が大きく、こうした水源林の整備だけでは復旧できない箇所は、治山事業や道路事業と連携して対応しています。

台風被害による土壌浸食の拡大防止

整備前（令和元年10月撮影）



整備後（令和2年6月撮影）



台風被害を受けて県では、森林整備業務共通仕様書の改正にあたり、「伐採後の幹や枝は、雨水が集まる沢や沢状の地形を避けて処理、整理すること」また、これが困難な場合は「伐倒木を極力長尺に玉切る等、大量の雨が降った場合でも流出しないようにすること」等を規定し、令和2年6月以

降に発注する森林整備業務に適用しているほか、市町村等にも当該仕様書を提供して、被害の未然防止を図っています。

4 返還後の水源林

森林所有者と20年の協定を締結して整備を行う水源協定林は、契約期間の満了に伴い所有者に返還されます。

本数を減らしたスギ、ヒノキの下に、低木や下草が生育する状態で返還されることから、間伐等の手入れは当面の間は必要ありません。

しかし、健全な状態の森林を長期間維持していくためには、森林の状態を把握して今後の対策につなげる必要があります。

県では、令和元年度から、返還森林の巡視や航空レーザ測量といった手法により、水源林の現況や災害の有無等の状態を把握する取組みを試行しています。

これらのデータを関係機関等と共有し、今後の治山事業や造林事業、森林環境譲与税による森林整備等に反映したいと考えています。

（神奈川県環境農政局緑政部
水源環境保全課）



かながわ水源の森林づくり

わが市わが町 茅ヶ崎市



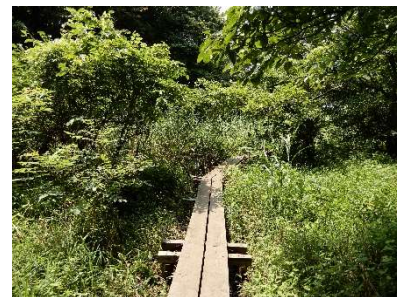
茅ヶ崎市は、神奈川県の中南部に位置し、四季を通じて温暖で、明治から昭和初期にかけて湘南有数の別荘地、保養地でした。その後、東京、横浜への交通の利便性や恵まれた環境を背景に急激な都市化が進み、人口は二十四万人を超えました。このような都市化の進行により、年々みどりは減少しています。そこで、より効果的な緑化の推進と生物多様性の保全に関する取り組みを推進するため、緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画である「みどりの基本計画」と生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本計画である「生物多様性地域戦略」を統合し、「茅ヶ崎市みどりの基本計画 生物多様性ちがさき戦略」を平成31年3月に策定しました。この計画ではみどりの主要な機能である環境保全やレクリエーション、防災・減災、景観形成からみたみどりの配置方針を定め、人と生きものが共生するみどりのネットワークの形成を目指しています。公園や緑地、樹林等のみどりは生きものの生息・生育環境となっています。人々は、生物多様性から豊かな恩恵を受けて生活をしています。

市内の緑地を紹介します。茅ヶ崎駅の近くにある高砂緑地は、明治の有名な新派俳優である川上音二郎の別荘でした。緑地内のクロマツ林は別荘地のおもむきを残し、市民の憩いの場やレクリエーションの場として重要です。



高砂緑地

北部丘陵にある清水谷は良好な緑地を永続的に保全し、豊かなみどりを将来に継承していくことを目的として平成24年3月に特別緑地保全地区に指定しました。広さは約4.9haと小規模な谷戸ですが、昔ながらの面影を残し、数多くの動植物の生息・生育環境となっています。樹林、草地、水辺が組み合わさって良好な谷戸環境を形成している清水谷は、市民活動団体が長年にわたり、保全活動を継続してきたことにより、多様な自然環境が維持されてきました。



清水谷特別緑地保全地区

茅ヶ崎市の最北部に約35haの神奈川県立茅ヶ崎里山公園があります。里山保全エリアには茅ヶ崎で一番大きな谷戸があり、谷戸環境に依存する生きものが多く見られます。多様な生きものを育む豊かな谷戸環境をボランティアグループとともに保全しています。子供の村では広々とした空間の中で子供たちが様々な遊びができます。里山公園まつりや自然観察会などさまざまなイベントが開催されています。



神奈川県立茅ヶ崎里山公園

今後も健康的で豊かな生活を送ることができる都市環境をつくるため、人と生きものが共生するみどりのネットワークを形成するさまざまな取組を推進していきます。

(茅ヶ崎市都市部景観みどり課)

森林活動グループの広場

南足柄市『大雄町花咲く里山協議会』

～美しい里山を求めて～



南足柄市『大雄町花咲く里山協議会』は県西部に位置し、曹洞宗三大名刹である大雄山最乗寺と密接に関わってきた歴史ある、昔ながらの里山風景が残されている貴重な地域で、面積は約13haが対象です。

菜の花畑、イワヤマツツジ、枝垂桜などシンボリックな花々や雑木林、竹林、水田、畑等があり、彩りある里山が演出され、整然と管理され、穏やかな営みを感じる里山でもあります。

このような空間に更なる彩りが増すようにと当初H18年（花咲く里山をつくる会）として地域の2名＋会員50名で発足しましたが、課題である、若年層が少なく、高齢化しつつあり、道路などインフラ整備が遅れていること等や有害鳥獣による影響が増大してきている、地域全体での活動がされず支障が出ている等々課題も多種多様で有り、何とか地域全体で活動し

ようとH21年より神奈川県里地里山条例に基づく活動団体として選定認定され、構成員メンバー35名＋会員90名で『大雄町花咲く里山協議会』を立ち上げました。

協議会の活動事項としては、①里山を維持し、後世へ引き継ぐ事業 ②里山資源の有効利用事業 ③地域住民、都市住民への里山啓発事業 ④自然とのふれあい教育育成事業 ⑤県、市、団体、企業等の関連事業があります。

各活動事項の内容は①農林地、竹林等の保全再生整備・有害鳥獣対策 ②ざる菊、桜祭り、ホタル観賞会 ③そばづくり、そば打ち一連体験 ④ざる菊、米作りレクチャー ⑤森林インストラクター、サミット、フォーラム、イベント、マスのつかみ取り体験等が、主たる年間を通しての活動です。

このような活動を15年ほど行ってきましたが、色々な苦難、問題

もある中、苦慮しつつも前向きに取り組んで『これぞ里山』、こんなにも美しい里山が神奈川に残っていたのか、一歩足を踏み入れた瞬間の田園風景や季節ごとに表情を変える里山の美しさ等々地域みんなが大切に守ってきた証です。



竹林整備



ざる菊祭り



そば打ち体験

また、そばづくりや田植などの体験や、ホタル観賞会、ざる菊祭り、桜祭り、マスのつかみ取り体験の他、新しく農体験などにも取り掛かり、子供から大人まで豊かな自然を満喫し、誰もが心豊かな気持ちで満足して過ごせる里山を、次世代に繋げられるよう、今後も活動を継続して行きたいと思っています。（会長：山崎政行）

第18回 あの森を訪ねて

大雄山最乗寺の森と周辺地



第18回「あの森を訪ねて」は、南足柄市の「大雄山最乗寺」などを訪ねることにした。

小田急線新松田駅からの便もあるが、今回は小田原駅から大雄山線に乗って行く。

美林50選地でもある。

コースは、小田原駅—大雄山駅＝バス＝道了尊バス停～境内～てんぐのこみち～第61回全国植樹祭会場～花咲く里山コース～南足柄神社～清左衛門地獄池～大雄山線富士フィルム前駅 とした。

6.5km位の距離。

大雄山鉄道

伊豆箱根鉄道大雄山線という。

大雄山最乗寺を参詣するための鉄道として、開設された。

国府津駅から小田原駅間が、国鉄により大正9年(1920)に延伸された。これとほどなくして、この線も大正12年(1923)に着工し、大正14年(1925)に完成。運行会社の筆頭株主は「大雄山最乗寺」だった。

富士フィルムは、年が変わって、昭和9年(1934)に足柄工場が開設した。今では、通勤・通学などで約800万の人々に利用されているとのこと。

坂本宿

足柄峠の坂下にあった「坂下宿」は、関本付近に比定されている。

足柄峠への道は、平安時代以前の「官道」であった。

当時の万葉集には、足柄峠は神の住むところの「御坂」と呼ばれて、難所として恐れられていた。

それから250年後の「更級日記」でも、その恐ろしげなことが記載されている。

その後、関本宿は、矢倉沢往還や甲州街道を行き来する旅人の宿泊所として賑わった。

富士登山などにも大いに利用された。途中からは、大雄山最乗寺への道がわかれている。



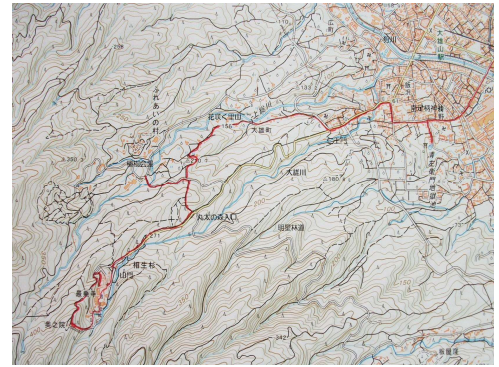
坂の途中から関本の市街地を望む

大雄山最乗寺

駅を出たバスは、狩川に架かる大雄橋を渡ると上り坂となる。

宿坊もある。お土産屋が軒を連ねていた通りを過ぎて「仁王門」に至る。バスは、本当の参道へ入ったようだ。周りが全てスギの林となった。車道と並行して、約2kmの「てんぐのこみち」が、最乗寺の三門まで続く。

残念ながら、この時期ではアジサイはほんの少しだけ。



下方の南足柄神社辺りから、参詣人のための道標があり、1町(106m)毎に設置されている。

途中には、2軒の茶屋と土産の店もある。

かつての、昔からの参詣の道が今も残っている。

そして、至る所に杉苗や、寄進のしるしを示した碑が建っている。明治末から大正初め頃のものが多いようだ。

最乗寺の縁起

630年前の応永元年(1394)年、了庵慧明禅師によって開山された、曹洞宗の修行専門道場。

了庵慧明禅師は、各地での修行の後に郷里相模に帰ってきた。

言い伝えによれば、ある時、袈裟を干していると、一羽の鷺が飛来し飛び去った。足柄の山中で袈裟をみつくて、ここは、禅林として相応しい所と断じて、大雄山最乗寺を建立した。

創建に当たり、道了菩薩が了庵慧明の基に参じ、土木の業等に従事した。了庵慧明の御遷化したのち、道了は、「以後山中にあつて大雄山を守り、多くの人々を利済する」といって山中に身を隠した。

大雄山のスギ林

バスが終点になると杉の巨木が見えてくる。そのすごさは、圧倒的な迫力で迫ってくる。

そこかしこに杉の巨木が林立している。境内スギ林は130町歩およそ1万7千本、その中で巨樹は350～500年に及ぶ大きさとも。1953年に県の天然記念物に指定された森林は26ha。

以前の調査では、全国的にも有数の蓄積と言われた。

この杉林は、宝徳3年(1451)に最乗寺5世春屋宗能が、山中の草木を伐採することを堅く禁じた掟書を出したことに始まる。

乱伐を戒め、境内の環境保護に務めることで、継承されてきた。

大雄山の魅力は、老杉巨木の立ち上る自然景観や堂宇の全てが歴史であると教えてくれる。巨大な杉が2本で対になった「和合の杉」が多いのに気がつく。

ウラジロガシやシラカシ、アオキなどの紅葉樹も交え自然に近い林分構成になっている。



山中には夫婦スギが多くみられる

瑠璃門を潜り、本堂の中を参拝し、御供橋を渡る。道了菩薩を祀る御真殿の側には、数多くの高下駄が奉納されている。

そこから、奥の院を目指して、354段の階段を、「新型コロナウイルス」に気を付けて、フーフー言いながら登る。

奥の院の近辺も至る所に巨木が立ち並び、小さな杉の木との立派な複層林の形状を示している。

時の流れの偉大さと、それを支えた人々の営みが、この景観を生み出している。



杉の巨木の中を縫うように歩く

道了尊のバス停から「てんぐのこみち」を下る。しばらく行くと、右手に「丸太の森」の看板。反対側は、明星林道約5000mの入口となっている。

第61回全国植樹祭会場へ

ここから山道に入り、林道へ出て、20分で植樹祭の会場へ。

第61回全国植樹祭(平成22年5月23日)の植栽現場。

今回は2ヶ所に分かれ、丸太の森地区は植樹会で、もう一か所は秦野の戸川公園で行われて、開催された。当日は、雨だったのを覚えている。天皇陛下はケヤキ、クヌギ、無花粉スギ、皇后陛下はヤマザクラ、イロハモミジ、シラカシ。8年経っているが、無花粉スギやその他の木々も、背を高く伸ばしている。



大きく育ったお手植え木

花咲く里山コース

植樹祭会場を出て、上総川の橋に行く、通行禁止とある。地元の人に聞くと「ここは3年前から通行禁止になった」とのこと。

仕方なく、林道を引き返し、途中丹沢の山並みを見ながら、林道

からの下りのコースに入る。

「花咲く里山コース」である。鹿柵のある道と反対側には大雄山の杉山が、しばらく続く。

南足柄市の里山らしい風景が、上総川沿いに広がっている。

茅葺きの農家や早苗の育つ水田。そして策菊の苗木が見える。



点在する策菊の畑

清左衛門地獄池

「仁王門」に出る。しばらく街中を歩き、南足柄神社の横を右手に曲り、清左衛門地獄池に着く。

明神ヶ岳を水源として、1日に1.3万トンの地下水が湧出している。全国の名水100選にも選ばれている。富士フィルムの第2水源地となっている。明神ヶ岳は、23万年前に活動していた成層火山。礫層の間を流れる水が湧水となって、至る所に出ている。

縄文時代の遺跡などからも、昔から水が豊富であったようだ。

池の中には、巖島神社が祀られており、神社の両脇からの水は、豊かで清く澄んでいる。

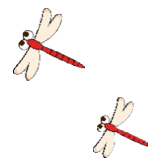


清く澄んだ清左衛門地獄池

6月の季節、明神ヶ岳山頂に霞みがかかり梅雨の模様となった。

小田原駅では雨となった。

(2020.6 瀧澤)



令和２年度第1回理事会及び第１１回通常総会をみなし決議により行いました

○令和２年度第１回理事会

決議があったとみなされた日

令和2年5月28日

承認された事項

- ・第11回通常総会へ提出する議案
- ・令和元年度森林林業功労者について
- ・令和２年度常勤役員の給料の額について

○令和２年度第１１回通常総会

決議があったとみなされた日

令和2年6月16日

承認された事項

- ・議案第１号 令和元年度事業報告及び収支決算報告
- ・議案第２号 令和２年度事業計画及び収支予算(案)
- ・議案第３号 令和２年度会費の賦課及び納入方法(案)
- ・議案第４号 役員の改選(案)



令和元年度森林林業功労者表彰

地域の林業の振興発展や、森林環境の保全に顕著な功績のあった個人、団体を表彰しています。
令和元年度は次の４名の方が表彰されました。

- ・坂東 浩二 (秦野市森林組合)
- ・平賀 達藏 (秦野市森林組合)
- ・西山 徳行 (伊勢原市森林組合)
- ・中村 英二 (南足柄市)

敬称略



<表紙写真>

道の駅足柄・金太郎のふるさと
交流施設

2020年6月26日開業



外観

編集・発行 神奈川県森林協会

発行日 令和２年７月３１日

住 所 厚木市中町２丁目１３番１４号

電話・FAX (046) 240-0500

ホームページ <http://k-crk.com>